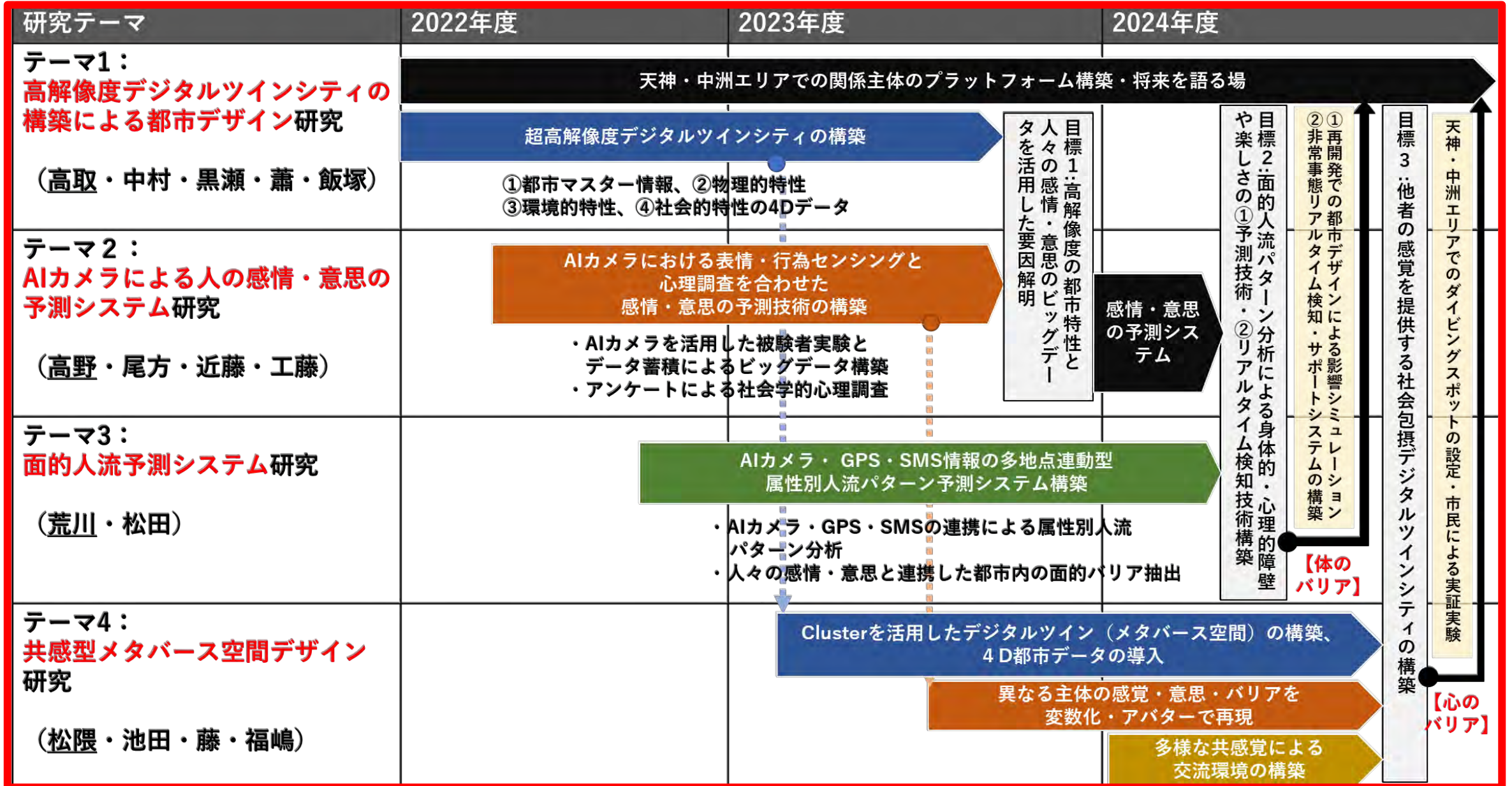


2. 研究課題の整理



テーマ4：共感型メタバース空間デザイン研究



リーダー：松隈浩之
(九州大学准教授/
3DCG、
ゲーミフィケーション)



福嶋政期
(九州大学准教授/
VR・ARシステム)



藤紀里子
(九州大学助教/
ユーザーインター
フェースデザイン)



池田美奈子
(九州大学准教授/
ソーシャル・コミュニケー
ションデザイン)

【POC3】他者の感覚を提供する
社会包摂型デジタルツインシティ
の構築（～2024年）

超高解像度デジタルツイン空間に
他者の知覚の変数を重さや電気信
号に変換・VR感覚再現デバイス
で体験可能に（天神・中洲にダイ
ビングスポット）

・メタバース上で交流可能な媒体
（記憶・アート）として他者に伝
達していく仕組みの構築

・「心」「文化」を中心とした市
民参加型・価値創造型デジタルツ
イン



※図イメージ：九大大橋キャンパス（松隈）

社会的弱者の経験の疑似体験



VRシステムデザイン



コミュニケーションデザイン



多様な知の連携の工夫 1

- ◆**行政・民間企業・市民団体等の多様な立場の関係主体との連携体制**は既に構築済みであり、随時研究会・WSを開始し、**協働**で実証実験・地域ニーズの反映、技術改善を行い、研究の進展における多様性の確保を図っている。

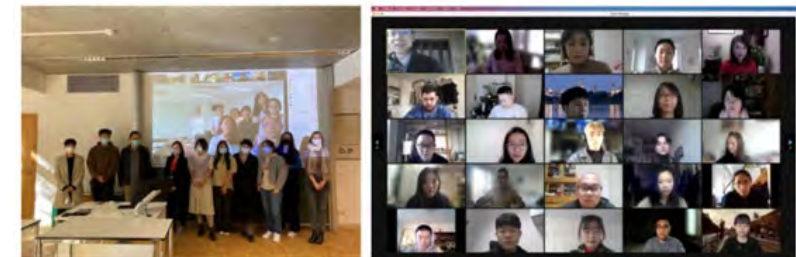
参加：福岡市、天神明治通り街づくり協議会（MDC）、中洲町連合会、NECソリューションズ、エックス都市研究所等

- ◆**国際連携**：本プロジェクトの活動、成果、運営状況を定期的に**国際的基準から評価**する体制。各国の社会包摂、デジタルツインの最先端技術に関する情報交換

都市のデジタル化国際セミナー（ドイツ・ドレスデン工科大学、ノルウェー科学技術大学、中国・浙江大学）を企画・開催



福岡市・MDC・NECとの研究会を既に月に1度実施



各国のデジタルツインに関する先端研究者参加

多様な知の連携の工夫 2

- 天神・中洲エリアにおいて、都市デザインの実証実験・社会実装につなげていくためには、多様な**地域主体との丁寧なコミュニケーション**が欠かせない。既に、2021年度には、該当エリアでの社会包摂型公共空間に関する市民セミナーを5回実施し、合計約630名（行政・企業・市民）が参加し活発な議論が行われている。
- 研究に参画する16名のメンバーの内、**5名が若手、5名が女性**である。このように、若手・女性などの**多様な性別・世代の研究者**が多く参加していることが特徴であり、まちの社会包摂を実現していく上で、柔軟なアイデアの創出と検証を行っていく体制を有している。



- ①合意形成を円滑にするためのWS・シミュレーション・実験等のプロセス共有
- ②主体を巻き込んだ包括的な協議プラットフォームの形成
- ③実証実験での市民の幅広い参加
- ④運営の実働体制を柔軟・機動的に行うための地域との意思決定の仕組みづくり

多様な知の連携の工夫3 (福岡モデルの構築)

- 福岡コ・クリエイティブ国際映画祭の開催（実行委員長：近藤加代子教授、2022年3月キックオフイベント、2023年3月第1回：国内外を代表するトップ映画監督6名の登壇・**社会包摂、共感型都市に関するトークセッション開催**、研究者との交流、市民の参加・表現・共感・共有の場提供

「心」「文化」を中心とした**市民参加型・価値創造型デジタルツインシティ**へ

中洲の元気 映画力で復活

九州大と地元がプロジェクト



学生が撮影、上映しPRへ

中洲・映画まちづくりプロジェクトによる初のイベントのポスター

中洲・映画まちづくりプロジェクト

河瀬監督招き 19日に初の催し

中洲の映画文化の中心地だった中洲で第一回、初イベントの会場となる中洲大洋映画劇場

「地域の映画界で文化とよき活動の活性化を融合できる」と話す河瀬直美監督（右）

映画祭は「文化と活性化を融合」



河瀬直美監督迎え初イベント

福岡の映画文化の発信地だった福岡市・中洲の活気を取り戻す方策を語るイベント「河瀬直美の映画を通してまちを育む」が19日、中洲大洋映画劇場で初めて開かれた。中洲で生活を営む人々に根ざした映画の制作や上映をどう地域に発信していくかについてを議論した。

中洲・映画まちづくりプロジェクト

九州大学学生研究部と中洲地区でつくる「中洲・映画まちづくりプロジェクト」の最初の活動。奈良舞台に於いた映画制作などで地域活性化に取り組む「なら国際映画祭」エグゼクティブディレクターの河瀬直美監督が、19日、中洲大洋映画劇場で初めて開かれた。中洲で生活を営む人々に根ざした映画の制作や上映をどう地域に発信していくかについてを議論した。



「映画の街」中洲再び

来年3月に映画祭

「映画の街」中洲再び。映画祭を開催する中洲の街が、映画祭を通じて、映画文化の発信地として、地域活性化の役割を果たすことが期待されている。

人材育成、文化発信の地に

映画祭を開催する中洲の街が、映画祭を通じて、映画文化の発信地として、地域活性化の役割を果たすことが期待されている。

コロナ禍でも地域に活気

映画祭を開催する中洲の街が、映画祭を通じて、映画文化の発信地として、地域活性化の役割を果たすことが期待されている。

来年3月 中洲で国際映画祭

地元企業や九大、クリエイターら企画



国内外話題作など上映「にぎわいを再び」

1960年代には約30館、現在は1館のみで、百貨店の中洲の街を映画の力で再びの映画文化を取り戻す。中洲の街を映画の力で再びの映画文化を取り戻す。中洲の街を映画の力で再びの映画文化を取り戻す。

国内外話題作など上映「にぎわいを再び」

1960年代には約30館、現在は1館のみで、百貨店の中洲の街を映画の力で再びの映画文化を取り戻す。中洲の街を映画の力で再びの映画文化を取り戻す。中洲の街を映画の力で再びの映画文化を取り戻す。

総合知の展開・実装へ

- 自治体・地域関係主体の連携のもと、社会包摂型デジタルシティで得られた知見を**福岡都心部の再開発事業や都市マネジメントへの反映**を図る。
- 汎用化に向け企業と技術開発を行い自立化を図るとともに**制度構築を行い国内外諸都市への実装**を図る。

- ✓ **本研究終了時**・・・天神・中洲エリアで**高齢者や障がい者の都市内回遊行動を20%増、価値創造・社会交流・自己表現活動を50%増加**
- ✓ **本技術が普及し、超高齢化が進行する30年後の未来**・・・**健康保険や福祉支援費が10%削減可能**になる社会を実現